

パルティ

2011. 12
VOL.131

特集 災害と男女共同参画 VOL.2

動き始めた女性たち	2
とちぎ次世代人材づくり2011	7
つばさの会有志スタディツアー	7
フェスタ in パルティ	8
講座報告	9
本の紹介	13
ちいき情報	13
こんにちは相談ルームです	14
不妊専門相談センターから	14
講座案内	15
インフォメーションコーナー	16



東日本大震災による原発事故の影響が長期化し、人々の不安も続いています。放射能から子どもたちを守るための暮らし方、農業への被害、避難生活を余儀なくされている人々への支援のあり方…など課題は山積みです。今回の特集では、そのような状況の中、様々な立場で動き始め、活動し続ける女性たちを紹介します。

Q. 今、何が心配ですか？

住んでいる場所は第二のホットスポットとも言われている。子ども達のためにも、同じ県内でも、宇都宮や県南地域へ引っ越した方が良いのかも…と考えています。

Q. 何か対策をしていますか？

個人で線量計を購入し、敷地内の土の入れ替えも行いました。周りの人たちはそれほど神経質になっていないようで、温度差を感じています。ただ、3歳の子の通う幼稚園では、放射能による汚染を心配する声も聞かれています。

個人でセミナーに参加

日光市(旧今市)在住、3歳と7ヵ月のお子さんを持つ30代のママ。個人で線量計を購入し、敷地内の放射線量を測定、土の入れ替えもしました。
(右記の9月16日のセミナー参加の場にインタビューさせていただきました)

Q. 国や行政に望んでいるものは？

12歳以下の子どもや妊産婦の活動地域の除染(土の入れ替え等)。幼稚園や小学校の砂場の砂は入れ替えて欲しい。また、国が決めた基準値だけでなく、地方自治体など、もっときめ細かい範囲ごとに基準値を設けてほしいと思います。また、スーパーの商品の産地表示も、隠さずに正確でわかりやすい表示を求めます。

Q. 今考えることは？

震災(原発事故)以降、今まで考えなくても良かったことを考えなくてはいけなくなりました。心配事も多いです。でも、今までの歴史を振り返っても、戦争や災害など何もない幸せな時代が続くことがないことは分かっています。だから、今の状況から目を背けず、戦っていかなくてはならないと感じています。



那須町「なすとらん倶楽部」運営組合 組合長
永山 優子 さん

「那須元気」を全国に発信

震災後、3月14日にレストランを再開しました。当初は、友愛の森が福島県などからの避難者相談窓口になったので、私たちも避難して来られた方々へ炊き出しや薬の調達、住居に関する相談など、通常のレストラン業務に加え、様々なサポートをしました。
名物の那須和牛が8月2日に出荷制限になりましたが、震災前の在庫があったためレストランでは引き続き提供することができました。8月25日に出荷制限が解除されるまでは業者を検査してもらおう等、お客様の不安を取り払うための努

3・11の東日本大震災後、様々な女性団体が支援活動や勉強会を行っています。(詳しくは130号をご覧ください)。

今号では、全国で、県内で、団体として、個人として、活動を始めた女性たちを紹介します。

「女性・子ども(災害弱者)の視点からの防災」セミナーを開催 栃木県女性団体連絡協議会

検証し続ける 女性団体

第1回 9/16

「放射線・放射能の正しい知識と日常生活」



放射能・放射線について質問する受講者

宇都宮大学バイオサイエンス
教育研究センター
准教授
松田 勝 さん

科学的なデータを元に、自然放射線物質と人工放射線物質は違うのか、放射能の人体に与える影響、特に子どもに及ぼす影響など、日常生活の中に潜む放射能・放射線について学んだ。

第2回 10/14

「東日本大震災を被災して ～行政にできること、市民にできること～」

後半は、栃木県消防防災課より、本県の防災対策や、地域の防災力を高めるための自主防災組織や要援護者対策、また家庭での防災の備えについて講話があった。

災害対策本部会議へ女性職員参画↓物資の需要、保健師等の助言
避難所運営への女性の参画↓フライング・バシー保護、相談体制の充実
地域での声かけ→人暮らしの高齢者への気配り、防犯体制づくり

被害と原発事故による避難所の運営や災害復旧、市民・専門家と共に行う放射能除染活動について報告があり、災害時の女性参画の必要性が話された。



南相馬市役所
市民生活部市民課 課長
庄子 まゆみ さん

研修会「震災と女性 ～3.11被災地からの報告」を開催 日光市女性団体連絡協議会

命をつなぐ物資から 仕事に関する支援へ

もりおか女性センター
センター長
田端 八重子 さん



今後の支援に向けた課題は、支援終了と継続のジレンマ。深刻化する高齢化率(働き盛りの人口流出)被災女性への心のケアの継続と相談員の養成がある。女性センターの使命として、女性への暴力の防止及び根絶(相談体制の強化・相談員の養成)女性と防災の学習の強化#復興委員会#エンター平等の提言がある。



(執筆:日光市女性団体連絡協議会 加藤幸子)

被災地の要望は時間と共に変化し、命をつなぐ物資から、今は仕事に関するものへ。センターでは、女性の起業へのステップとして「芽でる力」事業(仮設住宅の高齢者等の買い物代行と安否確認の仕事)を立ち上げた。また、女性の相談事業(被災女性の悩み、暴力相談)、女性の心のケアホットライン、#女性の心身の健康相談室などを重点的に行った。

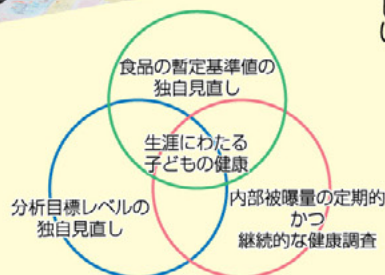
被災地という非日常状態では、女性の意見が通らない、女性の身体や健康は後回し、#DV・レイプ被害、#男性は有給ののれきを撤去する仕事だが女性は無給の3度の食事の世話…等、性別役割分業が強化され、女性たちはケア役割に引き戻された。

特集

災害と男女共同参画

VOL.2

動き始めた女性たち

「放射能の危険から子どもたちを守りたい！」
ママたちでつくるセーフティネット@とちぎ動き始めた
子育て世代

食品への不安・疑問に対応する活動を

「放射能の危険から子どもたちを守りたい！」と、栃木県在住のママたち5人が「ママたちでつくるセーフティネット@とちぎ」を立ち上げた。

もともと5人は、バルティの講座受講者21名で作った、ママの「育自」サークル「パレット」で、育児というライフステージにいろいろと、自分を磨こうというグループのメンバー。今回の放射能問題を受けて、「お母さんの目線で、安心安全を行政だけに求めるのではなく、未来をつくるために共に考えたい」と同じ思いを持つ仲間が集まった。

代表の奥西明子さんは、「その目標はただひとつ、子どもの生涯にわたる総被曝量の低減です！」ときっぱり。

事故当初は、子どもたちのことを考え、目の前に横たわる「空間線量」に気をもんでいたが、次第に、これから長く放射能と「戦う」ために軌道修正し、生涯にわたる子どもの健康を考えたり取り組みを洗い出した。それは、

「食品の暫定基準値は、全国同じでなく、県ごとに考えた方がいい。県独自の見直しが必要。」

食品などの放射線量が検出限界値より低いと、検出されているにもかかわらず不検出（ND）としか表示されない。分析目標レベルを独自に見直してほしい。

県内の勉強会

『低線量被曝を考える講座』

(主催・低線量被曝を考える講座実行委員会)

※第2回は「ママたちでつくるセーフティネット@とちぎ」も共催

ママたちが疑問、不安に思う「内部被曝について」や「食べ物安全か」などをテーマに、に、2回にわたり宇都宮市南図書館で開かれた。放射線医学の医師や福島県で活動している団体などを招き、「今私たちがすべきこと」や「被災地の現状、問題点」などを学んだ。



#問題の長期化を見据えて「内部被曝量の定期的かつ継続的な健康調査」を実施してほしい。

という3点だ。「母親の目線で、提言というカタチで行政に関わっていききたい。私たちがやれること、やれないことをよく考えながら、冷静に声を上げて求めていきたいですね。」

10月には県内各地で発足した5つの市民団体と連携して、県が検討中の県民健康調査について「内部被曝を十分に考慮した調査を」などを求める要望書を提出した。さらに「低線量被曝を考える講座」食でもいっの？」第2回を他の2団体と共に主催、ママたちの食品への不安・疑問に対応するなど、活動をさらに広げている。

震災に負けない
農業女性たち風評被害・農産物出荷停止…農業への被害に負けない！
農村レストランを運営する2人

震災以降、県内の農業や観光への影響に負けず、「食」と「農」を通して地域のために活動続ける2人の女性にお話をうかがいました。

塩谷町
企業組合「尚仁」理事長
渡辺 和美さん

子どもたちに食や農への関心を



※家族経営協定：家族農業経営に代わらずに各世代が意欲と甲斐を持って経営に参画できる魅力的な農業経営を目指す。経営方針や役割分担、家族みんなが働きやすい就業環境など、家族間の十分な話し合いに基づいて取り決めるもの。

山菜は出荷制限が続きましたが、米や蕎麦などは出荷できるようになり、地域の農業には明るい兆しが見えています。食材の制限で、人気メニューを出せない時期もありましたが、新しいメニューを仲間と開発する等、女性たちで連携してピンチをのりきっています。

お客様に安心していただくには、すべてを明確にする必要があります。放射能についての勉強会を続けています。

今後は、農業委員として家族経営協定の普及にも力を入れ、農業女性たちが安全対策に主体的に関わるように進めていきたいです。子育て世代が食への意識を高めている今、自分の目で安心な食材を選べるよう、若い世代や子どもたちに食や農への関心を高めたいです。

震災後、3月13日に
お店を再開しました。余震や計画停電の中での営業でした。尚仁沢湧水の一時停止とガソリン不足から、約1ヶ月はお客様が半減しました。近くの避難所には50名近くの方が避難されていまして、地域の女性たちと連携し、炊き出しやお子さんの散歩など、避難者の自活を支援しました。

力をしてきました。レジャー施設の入場客減少は深刻ですが、食の現場は元気です。今後は、那須町の女性団体ネットワークの活動などを通じて、農業の分野にももっと女性の声を活かしてゆきたいと思っています。また、「那須元気」を全国に発信しようと、新しいプロジェクトを立ち上げました。今こそ、「食」と「農」を見直し、地産地消をつたえるチャンスだと思っています。



NWECフォーラム2011

全国的女性団体が災害時の支援と復興について報告

全国的な
女性の動き

10月21～23日、国立女性教育会館において「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム（NWECフォーラム）」が開かれ、全国的女性団体が震災後の支援と復興について様々なワークショップで報告しました。福島的女性たちからの報告を中心に紹介します。

福島
から

「震災・原発事故と女性：福島からの報告」

国際女性教育振興会福島県支部

農業
農業関係者からは「作付できない田んぼ、風評被害による収入の激減：」「等、農家の悲痛な声が紹介された。

「震災・原発事故と女性：福島からの報告」
震災後、自転車と郡山市内約20か所の避難所を巡る。赤ちゃんやママ、妊婦のデイクア施設を確保。現在は、郡山市内に留まり子育てをしていくことを決めたママたちをサポート。「生まれて8か月の子を、二度も外に出してはいない。成長に影響がないか心配」「二人目を産みたいけど不安」などの声がある。ママたちの想いを語る場を作りたい。

子育て

・助産師
・宗形初枝さん

震災後、性暴力被害や仮設住宅でのDV被害が報告されている。「女性のための電話相談」を開設し、女性たちを支援している。

女性
相談

「女性の自立を
応援する会」
刈米 照子さん

地震・津波と福島原発事故後を生き抜く福島県的女性たちから報告があった。



他のワークショップでは、
・社会的弱者（女性、子ども、外国人女性）が災害時に
より危機に陥ること
・災害時の復興時の女性セ
ンターの役割、支援活動
・防災、災害復興と地域づ
くりにおける、団体・企
業の協働
・被災地の女性に防犯サイ
を届けたNPOの活動
等について報告があった。

全国
から

司会は宇都宮文星短期大学教授 山口哲子さん

23日にはシンポジウム「災害・震災復興と地域づくり・男女共同参画社会への展望」が開かれ、防災計画への女性委員の参画などについて話し合われた。（本県からは、栃木県女性団体連絡協議会等が出席）

そのほかにも
たくさん！

全国的な女性たちの動きを紹介します！

●日本学術会議主催学術フォーラム「「災害・復興と男女共同参画」6.11シンポジウム」

<http://www.scj.go.jp/ja/event/houkoku/110611houkoku.html>

6月11日に「「災害・復興と男女共同参画」6.11シンポジウム」が東京日本学術会議場で開催されました。シンポジウムでは、男女共同参画の視点を持った女性センターの支援活動として、もりおか女性センターや福島県男女共生センターの事例も報告されました。この会議の報告は、日本学術会議のHPに掲載されています。

●みやぎジョネット（みやぎ女性復興支援ネットワーク）

<http://miyagi-jonet.blogspot.com/>

みやぎジョネット（みやぎ女性復興支援ネットワーク）は、東日本大震災を受け、被災地女性と全国支援者の思いを結ぶことを目的に発足したNPO団体です。被災地における女性についての実態調査・被災地女性の声を聞きとめ、問題点については行政への提言・被災地サロンの開催・茶話会の実施による精神面での支援等を行っています。

●MDGガールズプロジェクト～10代女子のための震災ピアサポート～

<http://www.sendai-l.jp/mdg/>

財団法人せんだい男女共同参画財団と宮城県的女子学生による「仙台を含め被災地の10代女子たちに、好きなものやかわいいものに触れ、押さえこんでいた気持ちを少しでも解放してほしい。そして大切なものやひとを理不尽に奪われてしまったけれど「わたしの中に生きていく力も可能性もあるんだ！」と思い出してほしい」という願いから始まったプロジェクト。女子中高生のための女子会の企画や10代の女子がもらって嬉しい支援物資を集め、被災地の女子中高生にプレゼントする活動を行っています。

他にも様々な団体が活動しています。詳しくはパルティの災害情報HPで。 <http://www.parti.jp/shinsai.html>

福島県等から栃木県に
避難している方を応援！

「とちぎ暮らし応援会」が始動！

下野市で「あじさいお茶会」を開催

石嶋 恵子さん（下野市）
中嶋 孝子さん（下野市）
佐々木 正教さん（下野市避難者交流会よびかけ人・南相馬市出身）

震災直後、石嶋さんに知り合いから「佐々木さんという方が福島県南相馬市から下野市に避難している。支援してほしい」と連絡がありました。石嶋さんが佐々木さんとお会いしたところ「福島からの避難者が市内に他にもいるはず。気軽に集まって話ができる場所を一緒に作ろう」となりました。友人の中嶋さんも誘い、公民館を借りて6月から定期的にお茶会が始まりました。

佐々木さんが作る便り「絆 きずな ふるさとへ」とお茶会のお知らせを、行政が郵送する市内の避難者への通知に同封しています。お茶会は月に2回、夏にはバーベキュー、秋は勉強会、冬は忘年会…と、すでに10回以上開催されました。毎回20名前後の避難者の方が参加し、懐かしい故郷のことや行政等からの支援情報、「この先、地元に戻れるのか」など、今後の生活再建等について情報交換をしています。お茶会にはボランティアの地域住民の方も毎回手伝っています。また、ボランティアで集まった物資も提供しています。お茶会



お茶会の様子



前列佐々木さんご夫妻、
後列左より石嶋さん、
中嶋さん

に不参加だった方には、車で4時間かけて各世帯に物資を配ることもあります。「必要とされるあいだは、お茶会を開いていきたい」と熱く語る3人。

あじさいお茶会をモデルとして、支援の輪が、県内各地に広がっています。

1人の女性の
支援から始まった
絆の広がり

県内に福島県等被災地から避難している方は約2700人（10月末現在）。多くの方が、避難所から民間借り上げ住宅などに移り、情報不足やコミュニティからの孤立が懸念されています。そこで、約50の団体やNPO、企業や行政がネットワークを組み「とちぎ暮らし応援会」を結成。県内各地で避難者を支援しています。

●「とちぎ暮らしの手帳」作成
●ホームページでの情報提供
●避難者の皆さんが集うフォーラム（1月下旬予定）
●等を行います。
●パルティも、会の構成メンバーとして、男女共同参画の視点から支援を行っていきます。
●今回は応援会メンバーの活動から下野市の「あじさいお茶会」と、宇都宮大学の取り組みを紹介します。

福島乳幼児・妊産婦ニーズ対応プロジェクト 宇都宮大学学生ボランティアグループ（Fnnp Jr.）

できることを
したいと活動する
大学生たち

宇都宮大学国際学部の阪本公美子准教授を中心に、学生ボランティア14名が活動しています。福島から震災で避難している妊産婦や乳幼児家族に、ネットワーク作りのお茶会、親子キャンプ、そして避難者・避難希望者と住宅提供者をつなぐ「住宅マッチング」などの支援活動を行っています。中心的に活動する濱田清貴さんと瀬川彩さんにお話を伺いました。

6月24日(金) ママ茶会開催

妊婦1名、母親5名、0～7歳児童6名参加
助成：コンソーシアムとちぎ
協力：NPO法人 エンジェルライン

震災後、学生が避難者へ個別に聞き取りを行ったところ、「話し相手が欲しい」という声から、ママ茶会を開催。



現在住んでいる
宇都宮の情報を
得ることができました。

助産師さんに
話が聞けて良かったです。

参加した子どもたちは、震災以来、初めて同世代の友達やボランティアの学生と、おもいっきり走って遊ぶことができ大喜び。参加者の声より、ママ茶会のニーズを再確認し、現在、第2回目ママ茶会を企画。

10月22日(土)・23日(日) ちびっこキャンプ開催

3家族（父母6名、1～6歳児童7名） 栃木市内家族（親1名・子1名）参加
助成：宇都宮大学峰が丘地域貢献ファンド
協力：NPO法人 エンジェルライン、
宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト

ママ茶会の際、「外で子どもを遊ばせたい。親たちは子どもと離れて少しゆっくりしたい。」という要望から、ちびっこキャンプを開催。



保護者からは
「子どもの楽し
そうな顔を見
ることができ
良かった」との
声。

地元農家からいただいた野菜を使い、学生が中心に作った食事は大好評。ボランティアの学生は、自分たちでもできることがあると自信になりました。



「民間住宅の借り上げ説明会などに出向いてチラシを配ったり、新聞に掲載してもらったりPRしました。避難者に直接聞き取りをする中でニーズを伺ってきましたが、「避難したくても避難先がない」「被災者が不満を言えなくなっている」など問題は深刻化しています。現在は4年生が中心の活動を、今後は2、3年生に引き継ぎ、このプロジェクトを長く行っていきます。また、今後はいろいろな団体と連携も取っていく予定です。」

震災から半年
避難所から仮設住宅へ

仮設住宅での暮らし

那須烏山市岩子にある県内唯一の仮設住宅。そこには小さなお子さんを持つ家庭を含む18世帯(12月現在)が生活されています。今回は仮設住宅の代表をされている曾根原勉さんと、3歳から14歳のお子さん4人を育てる女性にお話を伺いました。

Q:「仮設住宅の運営について」

女性や体の不自由な方、お年寄りが安心して暮らせる工夫はされていますか？

A: お年寄りや体の不自由な方のいる家庭の住宅には、設営の段階でスロープを付けてもらいました。その他、生活する中で不便を感じたりすることについては、その都度話し合い、行政に相談しながら改善しています。ただ、これから本格的な冬を迎えるに当たり、湿気やカビとの戦いになりそうです。住宅の結露がひどいので…。

Q:「心のケアについて」

仮設住宅に保健師や相談員は来ていますか？また入居者同士の交流はありますか？

A: 保健師は二戸毎巡回、不在の所にはアンケートを配布する等して対応しているようです。相談員はいませんが、必要に応じて個人で市に相談に行っているようです。

入居者同士の交流としては、市やボランティアの協力もあり、夏祭り等のイベントを開催し交流を深めてきました。また12月には、これまでお世話になった方々を招いての感謝の集いを住民主催で企画しています。それ以外でも、立ち話の延長で簡単な話し合いが自然発生的に行われているようです。

Q:「子育てについて」

ママ同士の交流や相談出来る環境は整っていますか？

A: 小さな子どもを持つ家庭が少ないのでママ同士の交流というより同じ住宅に住む隣近所の方達との情報交換がメイン。今まで関わらなかったような人との交流は、今の生活の中ではなくてはならないもの。とても心強く感じています。

内閣府・男女共同参画局の指針

●平成23年6月23日

内閣府男女共同参画局が男女共同参画の視点を踏まえた仮設住宅における配慮のあり方を提言。

●平成23年7月29日

東日本大震災復興基本法に基づき、「東日本大震災からの復興の基本方針」(東日本大震災復興対策本部)に「復興のあらゆる場・組織に女性の参画を促進する」など、「男女共同参画」の視点が盛り込まれた。

●平成23年度10月1日

内閣府東日本大震災復興対策本部事務局に「男女共同参画・ボランティア班」が置かれ、職員(NGOや民間からも就任)が配置された。

詳しくは、<http://www.gender.go.jp/saigai.html>



Q:「子ども達の配慮について」
A: 立地的には、近くに公園等子ども達が遊べる場所もあり、子育て中の家庭にとっては恵まれていると思います。また、震災後すぐの避難所での暮らしから考えると、この仮設住宅での生活はすいぶん落ち着いていると思います。が、今までと違った環境での生活に、子ども達の変化も感じています。子ども達のためにも刻も早い復興と、本当の意味で落ち着いた生活を取り戻したいですね。
また、この仮設住宅に在る間は(限られた環境の中でも)子ども達にはのびのびと過ごして欲しいと思っています。この生活も良い経験として成長して行きたいですね。



仮設住宅の様子。
住宅1戸の造りは1K~3LK

災害時も、復興の今も、普段から暴力のない社会を！ ひとりで悩まないで！

災害と暴力に悩む女性と子どものための
パープル・ホットライン 0120-941-826

全国女性シェルターネットでは、4月10日より、24時間、無料電話相談を行っています。

DV・性暴力・セクハラ等女性に対する暴力被害、被災女性、子ども虐待などの相談に応じえています。

外国籍女性のための多言語の対応や、法律相談、シングルマザーの相談も曜日・時間を限って受付けています。

被災による避難所や仮設住宅での生活など環境の激変によって、実際に性暴力やDV被害、子どもたちへの虐待が報告されています。ひとりで悩まないで、お電話ください。

ホームページ <http://www.nwsnet.or.jp/purpleline/>

10月15日「性暴力の根絶に向けて-全国縦断シンポジウム in とちぎ」(ウイメンズハウスとちぎ主催)から

全国女性シェルターネット 近藤恵子さんからパープル・ホットラインの活動報告がありました。

○震災により、過去の性暴力被害のフラッシュバックや、PTSD症状の悪化について相談が増えた。

○災害時の性暴力(暗闇での性被害、避難所でのセクハラなど)の相談がある。

○「避難所や仮設住宅の密室で、DV夫や虐待親からの逃げ場がない」「被災して仕事を失った」「夫は支援金をギャンブルに使ってしまう」等の相談がある。 …

性暴力やDV被害者は、平常時も相談しづらいのに、「災害時の非常事態だから、我慢なくては」と相談せず、深刻化したり被害件数が増加してしまう。
ひとりで悩まないで、相談してほしい。日本中が被害者のシェルターとなるよう、皆で支援していこう。



とちぎ男女共同参画センター相談ルームでは、女性のための相談を行っています。

DV、性暴力、子育て、介護…ひとりで悩まないで、お気軽にお電話ください。

電話相談 月~日曜日 9時~16時 028-665-8720

福島県等から、栃木県内への避難者の方もどうぞ。「慣れない土地での子育てや介護が大変」など、ひとりで悩まないで！

とちぎ次世代人材づくり 2011

～新しい自分に会いに行こう～

平成23年度「栃木県次世代人材づくり事業」県外研修報告（10/13～10/15）

人間性豊かで地域に貢献する実践的な青年リーダー及び女性リーダーの育成を目的に、県と市町が共同で実施している「栃木県次世代人材づくり事業」において、今年度は12名の参加者が、女性リーダーとしてスキル習得や地域の課題、県外の取り組みなどについて学んでいます。

県外研修では、島根県松江市で開催された「日本女性会議2011松江」に参加するとともに、現地の企業・団体を2つのグループに分かれ訪問しました。今回は、企業・団体との交流の様子について報告します。

（株）長岡塗装店（島根県松江市）

平成23年10月13日（木） 6名（ほか事務局1名）で訪問

「働きやすい環境づくりで若手社員の定着と技術伝承の推進」を掲げ、早くからワーク・ライフ・バランスに取り組んでいる女性リーダーのいる企業。

- ・2008年「子どもと家族を応援する日本」功労者受賞（内閣総理大臣）
- ・2008年 第2回「ワーク・ライフ・バランス大賞」
- 組織活動部門最優秀賞受賞 ほか多数の表彰受賞

【参加者の感想】一人ひとりの能力・意欲を發揮させ、生涯にわたって働ける職場、問題意識の共有化・補完し合えるチームワークが築ける魅力的な職場がここにありました。対応してくださった常務の古志野純子さんの丁寧なおもてなしの心と、「会社の一番の財産は社員！」として熱心に語る姿には、何度も納得させられた有意義なひと時でした。



横並びの会（島根県安来市）

平成23年10月13日（木） 6名（ほか事務局1名）で訪問

寸劇を通して「人権尊重」の視点を考慮した男女共同参画推進に取り組んでいる団体。

- ・2007年「島根県男女共同参画パフォーマンスステージ」でシナリオ賞・最優秀賞のダブル受賞
- ・2010年「島根県知事表彰」（人権に関する教育や啓発の活動）

【参加者の感想】会長の門脇正憲さんほか6名の会員の方々との交流は、アットホームな雰囲気の中で活発に意見交換が行われました。身近な問題をテーマにした寸劇の内容はうなずけるものばかりで、私たちの地域においても参考になるものでした。私たちも日頃地域で疑問に感じていることなどを見逃さずことなく、地域において本音で話し合えるよう声を上げていきたいと思いました。



とちぎつばさの会の有志19名がノルウェーにスタディツアーへ（10/17～10/23）

男女共同参画社会世界一の国ノルウェーの女性の生き方を学ぶ

元ノルウェー大使・白鷗大教授の河合正男氏とエッセイストの三井マリ子氏による事前研修を受け、私達はノルウェー「女性の生き方を学ぶ旅」に出発した。三井氏をはじめ、元ノルウェー大使の韓国の梁氏の力強い協力者に恵まれ、テロで忙しかつていた国会、オスロ市議会での講義交流等では参加者全員が感激を味わった。

ノルウェー国営放送NRK → オスロ市議会 → ノーベル平和委員会 → ノーベル平和センター → オスロ大学キャンパス内保育園 → オスロ市議会 → 国会議事堂 → イブセンミュージアム → ナショナルギャラリー → 国立女性博物館 → 国立教会 → 元オーモット市長宅での夕食 → 次の日市長の案内で市内の保育園・小学校・国立ヘドマルク大学・健康ケアセンター・文化教養センター・市庁舎訪問 → ホームビジット（5グループに分かれ家庭訪問）

全ての部署で男女平等を確実なものとするために常にチェックがなされ、政治が国民の為に行われていた。駅前に歩いて行けるところに主要な庁舎が集中して建てられ、運営されるのは政治の力無しではできないと思う。もっと女性議員を増やすことが、私達、男女共同参画に関わるものの「やるべき事」と痛切に感じてきた。

（とちぎつばさの会 梅澤啓子）



オスロ市議会



国会議事堂前広場にて



国会議事堂議長席で



男性トイレにもおむつ替えの表示が

国会議事堂では外に警察官の姿がなく、また議長席に座って写真撮影もOK。日本にない光景や経験でした。

「みんなの元気でつなげる やさしい未来へ」 フェスタ in パルティ2011を開催しました

11月12日（土）に「みんなの元気でつなげる やさしい未来へ」をテーマに、フェスタ in パルティ2011を開催しました。元気に活動している76の団体・グループが参加し、多彩な企画イベントになりました。

男女共同参画や災害に関する展示やワークショップ、朗読コンサートや踊りのパフォーマンス、手作り品の展示販売など、それぞれの団体が日ごろの活動やチャレンジの成果を発表しました。

13日は公開講座を開催。2日間で約1400人が来場し、様々な世代が集い、交流を深め、元気になるフェスタとなりました。



たくさんのグループたちの発表の中から一部をご紹介します 11/12



ランチョンマット作り体験
(宇都宮市家庭教育オビニオンリーダー会)



子どもの詩にふれあう
(青ぶどうの会)

親子で楽しめるコーナー



よさこい
(絆翔〜HY〜)



インド舞踊
(ラクシュミーインド古典舞踊)



健康体操
(市貝いきいき元気体操クラブ)



言葉あそび、手あそび、音あそび
(たんぽぽひろば)

音楽やダンスの発表



フリーマーケット
(ママの育自サークル パレット)



米粉や手作り石鹸などの販売
(forty's)

リサイクル品・エコ商品の販売

男女共同参画を考える発表や展示



男女共同参画って何？風船とクイズで交流
(とちぎつばさの会)



メッセージ紙芝居
(おおひら男女共同参画をすすめる会)



男の料理—イモフライの販売
(いろりの会)



朗読コンサート「絆」
(とち乙女+桑川吉美)

災害と男女共同参画の展示



災害を女性の視点で！展示と喫茶
(ゆう企画)



被災地の展示と喫茶
(ぐる〜ぶ もみの木)

パルティコーナー



ステップアップコース
参加者による発表・展示



ステップカフェ

フワフワハウス

フェスタinパーティ 公開講座 「デートDV ～大切な人の未来を傷つけないために～」

講師 NPO法人レジリエンス 中島 幸子 さん

11
13



(撮影: フォトジャーナリスト 大蔵麻子)
NPO法人レジリエンス代表
中島 幸子 さん

2001年にDV防止法が制定され、DVは大きな社会問題として知られるようになりました。と同時に「恋人同士の間での暴力＝デートDV」が起きていることが明らかになってきました。この講座では、暴力に対する早期予防教育の必要性和その後の心のケアまでを踏まえたサポートについて学び考えました。

毎年11月12日～11月25日は「女性に対する暴力をなくす運動」期間です



(講座企画運営、記事執筆: 認定NPO法人ウイメンズハウスとちぎ)

など、ご自身の体験を交えながら話されました。最後に、「グリーフケア(喪失にともなう深い悲しみのケア)をしながら、今の自分はデートDVを経験したことによって成長している(BTG: Post Traumatic Growth, トラウマの後の成長)」と最後に話され、世の中の☆さん(サバイバー)にエールを送られ講演会は終了しました。

■DVとデートDVは、ほとんど変わらない。2人の関係性にパワー(権力)とコントロール(支配)が起こり、「対等ではなく上下」の関係になっている。それは「人が人を傷つける」という点で虐待・いじめ・パワハラと同じである。

■暴力には身体的・性的・経済的・精神的暴力があるが、体にできた傷は時間がかかってもいつかは治る。しかし、心にできた見えない傷はなかなか治らない。その上見えない傷に対しては周囲の理解が少ない。ひとりひとり傷つき方も感じ方もそれぞれ違うということとをわかっていないといけない。問題を解決する手段は、暴力以外に必ずある。暴力を解決方法に選んだ時点で、100%加害者の責任になる。

■恋人同士の間で、「束縛されることが愛情」と思っている人がいる。愛情には尊重が不可欠。束縛には尊重は含まれていない。束縛とは自由を奪い上げること。メディア等の間違った情報についても、子どもたちが自分で気づき考えていけるように、私たち大人はきちんとした情報を伝えるべきだ。気づくことは次のステップへ進むためにも大切である。そして、日頃から学校だけではなく、地域・スクールカウンセラー・病院・警察・家族などとのネットワークを深め、いざという時に連携が取れるようにしておく必要がある。

講座・イベント報告

8月5日
＜女性への暴力を考える講座＞

デートDVを考える研修会

～デートDVの構造と心理的理解～

栃木県教育委員会と当センターとの共催により、県内高等学校等の教員(人権教育・生徒指導・教育相談担当・養護教諭等)を対象に、デートDVについての理解を深めるとともに、指導方法について学ぶ研修会を開催しました。



講師 阿部 美代子 さん
(家族相談室・エコーズ代表)

●内閣府の調査結果(2005年)
10代から20代の女性の5人に1人以上が、付き合っている人からデートDVの被害を受けています。

●暴力のサイクル
加害者は暴力だけふるっているわけではありません。優しくさから時に不機嫌になり、暴力の爆発がくるという繰り返しが起きます。



- DVとは?
配偶者間で起こる暴力
- デートDVとは?
交際の親密な関係にあるカップルの間で起こる暴力
- 暴力の種類
 - 身体的暴力
殴る、蹴る、首を絞める、他
 - 心理的暴力
大声で怒鳴る、机を叩く、無視をする、他
 - 社会的暴力
携帯電話・持ち物をチェックする、人との付き合いを制限または禁止する、他
 - 経済的暴力
お金を出させる、借りたお金を返さない、他
 - 性的暴力
性行為の強要、避妊に協力しない、他

～家族相談室・エコーズによる寸劇～

事例に基づいた迫力ある寸劇を通して、デートDVの現状を視覚で理解するとともに、学校や教員が生徒とかかわる際の注意点や対応の仕方について学びました。



友人からの遊びの誘いを断る女子生徒(左)



些細なことで彼とケンカになり、暴力を受ける女子生徒(右)



保健室で養護教諭にアザを見つけれられた女子生徒(右)

デートDVは、本人も周囲も暴力と認識しにくく軽視されがちですが、暴力が心身に及ぼす影響は多大です。生徒からの相談、もしくはデートDVが疑われる生徒がいる場合は、まず、緊急性を見逃さないこと。基本的には生徒の話を傾聴しながら、生徒自身が現状を理解し、自ら決意して歩み出せるよう援助し、保護者との連携をとりながら、専門機関に繋ぐことが大切です。

●教師、学校にできること

！デートDVについて正しい認識と情報をもつ
・暴力防止教育の実施
・生徒が相談しやすいシステムづくり
知識を持ち、自尊感情を持たせる教育が大切

●法や制度でできること

・ストーカー行為規制法を利用(※DV防止法は、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律であり、恋人間の暴力は対象外となります。)

参加者アンケートより

- ・学校での対応の仕方が参考になりました。
- ・具体的に見ることで、言葉では理解できない雰囲気まで味わえました。
- ・デートDVは思っているより幅広く、よくある事だと分かりました。寸劇は生徒に対しても見せたい内容です。

第1回
8/27自分も社会もハッピーになる、
ライフバランス

講師：宇都宮文星短期大学 教授 山口 哲子

■ジェンダーチェックリスト

家庭・学校・地域・職場…。その場所で自分がどのような意識に基づいた行動とっているのかをチェック！

例えば、学校の保護者会。出席しているのは母親なのに、保護者欄に父親の名前を書いている人、いませんか？

■男女共同参画社会とは？

実質的な男女の平等は、機会の平等ではなく**結果の平等**。男女が共に**仕事と家庭に関する責任を担える社会の構築**という視点が大切。

■グループワーク

「高齢者・障がい者に優しい地域づくり」「労働」「自立した生き方」

の3つから自分の興味のあるテーマを選び、同じ問題意識を持つ仲間と共に問題提起と解決策を考え、模造紙にまとめました。

第2回
9/10ココロをつなげる、
みんなをつなげるNLP！
～コミュニケーション力アップ講座～

講師：コミュニケーション塾 主宰 工藤 敬子

■コミュニケーションのポイント

本当の悩みは言葉になりません。悩みは「**非言語（表情や仕草）**」として表れます。まずそれに気付くこと。また立場や環境はみんな違うので、相手と全く同じ気持ちになることは出来ません。**共感することではなく、共感感覚を磨くことが大切です。**

■プレゼンテーションのポイント

主役は聞き手であり、話し手ではありません。！ **People（誰に）** **Purpose（目的）** **Place（場所）** の3つのPを意識することが大切。

■みんなの前で発表！

笑顔・身振り手振り・姿勢を意識しながらグループ内でスピーチの練習と発表を繰り返した後、代表者が前に出てきて発表！
笑顔と自信にあふれたスピーチに、最後は大きな拍手が！！

第3回
9/24毎日がちょっとずつよくなる、
小さな幸せを楽しむコツ
～「つながり」の達人に学ぶ～

【グループゲスト】あしたばの会さん・元気??さん・ドリームガールズさん

【個人ゲスト】渡邊 能辰さん・岩原 淑子さん

写真右より、元気??さん、岩原さん、ドリームガールズさん



■ゲストの発表と交流会

「自分らしい生き方」＝「なりたい自分」を目指し、それぞれの形・ペースで「**自分出来る事**」を実践しているゲストの皆さん。活動の発表後、小さなグループに分かれて、活動のきっかけや家族の協力などを気軽に話せる交流会を開きました。無理のないつながりの中でキラキラ輝くゲストの姿に、受講者の皆さんも「未来の自分」を重ねていました。

つながる！男女共同参画セミナー

全5回

ステップアップコース

～自分も社会も幸せになる「多縁」計画～

自分も 社会も 幸せになるために
つながろう！ 続けよう！第5回
10/15夢に向かってナビづくり
～多縁・元気社会への行動計画～

講師：宇都宮文星短期大学 教授 山口 哲子

■自分を成長させるために

自分を成長させること＝自己啓発。自分を成長させて、生活や仕事に生かしていくこと。「気づき」により自分の意識が変わり、自分の行動を変えていくこと。そして、これを**継続し、スパイラルアップ**することが大切です。

■多縁・元気社会への行動計画

なりたい自分になるために！各自**5W2H**【What（行動）・Why（目的）・When（時期・期間）・Where（場所）・Who（誰と）・How（方法）・How much（費用）】に沿って行動計画を考えました。

■行動計画を発表！

講座も今回が最終回。午前中作成した行動計画を、午後は全員の前で発表！それぞれの熱い思いが伝わる発表に、講師や見ている他のメンバーから「すごい！」「感動した！」という声が。胸がジーンと熱くなる、そんな最終回でした。

第4回
10/8夢をかなえる！
～My・Our ドリームマップ®～

※ドリームマップ®は⑭エ・ム・ズの登録商標です

講師：⑭エ・ム・ズICP認定コーチ・ドリマ先生 松本 昌子

■ドリームマップとは？

ドリームマップとは、**目標に映像をつける（ビジュアル化）目標達成ツール**です。

■夢をかなえるワン・ツー・スリーの法則

！現在の自分を分析する
"魅力的な目標を設定する
＃！"の差を埋める具体的な行動をとる

■ポイント！

大事なのは「**なりたい自分**」を明確にすること。幸せな生活をしたい！ではなく「**自分にとっての幸せ**」を明確にすることが大切。キーワードは「**自分がわくわくする**」「**自分が楽しいと感じる**」こと！

■ドリームマップ作成

楽しみながらドリームマップを作成！完成したら「**全ての夢がかなった自分**」になりきって発表！笑い声と拍手が教室中に響き渡りました！



第4回

9/17

とちぎ女性政策塾(全8回)より

第4回「協働ー市民主体のまちづくりー」をピックアップ!



講師 宇都宮大学 教授 陣内 雄次

全8回を通じて審議会等委員に必要な知識やスキルを学ぶ「とちぎ女性政策塾」。
第4回は今後女性の活躍が期待される「まちづくり」にいかに関わって
いくかについて講義とグループワークを通じて学びました。

1「私たちが心に留めておくべきこと」

地域社会への無関心から、行政任せ、学校任せ、となっている現在のまちづくり。〇〇任せのままでいると、いつの間にか身近な生活環境の荒廃が進んでしまう…。

2「袋小路のまちづくり」

テーマ「まちづくりとは何か」についてグループワーク。次世代に「負の遺産」ではなく、「希望」を託すために市民が「まち育て」の担い手に!

3「住み続けられる、住み続けたい、

地域にしていけるために」

自治会活動などを通じて、ソーシャルキャピタル(信頼に基づく絆)を蓄積し、「生き心地の良い社会」をつくろう!自治会活動が抱える課題を乗り越えるカギはWARM HEART(地域への「ハート」(想い))。

4「開かれた組織の重要性」

自治会、自治体、NPO、事業所…それぞれの得意技と力をつなごう!

「人づくりはまちづくり
まちづくりは人づくり」

6「女性と協働事例」

県内外で活躍する女性の事例を通じ、私たちに何ができるかを考えてみました。



女性の活躍事例を
ビデオ視聴しました。

5「政策と協働について」

テーマ「政策とは?協働とは?両者の関係は?」についてグループワーク。政策はあるべき姿の実現



手段、協働は政策遂行のための哲学、土台、方法論。

それぞれの経験をもとに活発に意見を交わしました。

女性のための心理学講座～ココロほぐしレッスン～

母・妻・嫁・娘…いろんな役割をがんばりすぎてしまう女性たちの、ほっとひとときタイム。
私らしく、ラクになるための、ココロほぐしレッスンを行いました。



第1回

9/9

ココロのしくみを知る
～家族心理学レッスン～

家族相談室・エコーズ代表 家族心理士 阿部 美代子



阿部講師

前半は、基本的なカウンセリング理論(精神分析的カウンセリング、来談者中心療法、認知行動療法)について分かりやすく学びました。後半は、家族心理療法の視点から、家族のライフサイクルに沿って、発達段階(結婚・子育て・中年期・老年期等)で起こる問題を知り、より良い親子・夫婦関係や、女性の自立について考えました。

第2回

9/16

大切な人との関係を築く
～傾聴レッスン～

家族相談室・エコーズ代表 家族心理士 阿部 美代子

人間関係の基本である受容的な関係作り「傾聴」のレッスンを行いました。「カウンセリング的対応」の講義の後、母娘の会話例を通じ、傾聴のポイントを確認。じゃんけん列車で心身をほぐし、二人組で「参加動機」や「これからの生き方」を傾聴し合いました。最後は円陣になり、全員がひとこと感想を述べ、笑顔で終わりました。



母と娘の会話のロール
プレイで傾聴のポイン
トをつかみました。

第3回

9/30

私のモヤモヤ、どこからくるの?
～愛は傷つけない～

認定NPO法人ウイメンズハウスとちぎ 理事長 中村 明美



DVの家族を描いた「揺
らぐ家族」を視聴し、DV
について考えました。

「女だから悩むとき」を振り返り、女性の生きづらさがジェンダー(社会的性別)の問題から起こることを確認。「揺らぐ家族」を視聴し、グループでDVについて話し、分かち合いました。暴力の構造や、被害からの回復(エンパワーメント、自尊心の回復)についてなど、シェルター活動の現場の声を伺いました。

第4回

10/7

私が私を幸せにする方法
～夢語り～

彩ライフデザイン研究所代表 キャリアカウンセラー 川鍋 節子



川鍋講師

「自分が主役の人生」を送るために、幸せになるためのレッスンをしました。現年齢から寿命までを主体的に過ごすため、夢をどう叶えるか、また自分のコミュニケーションパターンを知り、より良い関係づくりについて考えました。「しあわせカード」で、自身の長所や夢・ごほうびを記入し、グループでシェア。「過去と他人は変えられない。変えられるのは自分の未来だけ」とのメッセージがありました。

年齢も環境も家族形態も様々な女性たちが集いました。子育て、夫婦・家族関係、仕事、介護、おひとりさま…それぞれの想いを、グループトークやワークを通して、気持ちを分かち合い、自分らしい生き方について考えました。

子育て応援講座～赤ちゃんの元気はママの元気から～



日 時：10月29日(土)10:00～12:00

講 師：NPO法人マドレボニータ代表/産後ケアインストラクター 吉岡 マコ

この講座は、出産後における女性の心身の変化を知ることを行いました。産後女性をサポートしていくうえで、家族や周囲が正しく理解する大切さ、そして、母親は自分の心と体のケアにも取り組むことの大切さを学びました。

■日本の産後事情

日本は新生児死亡率が世界一少ない。最も安全に出産できる国と言えますが、生まれた後に虐待等の事態が発生しています。

- 児童相談所に報告されている虐待件数の60%が0歳児。
- 年間10万人(10人に1人)が産後うつと診断されています。

■公費で負担されている周産期ヘルスケア



「日本は産後女性に対する公的サービスが圧倒的に欠けています」

■産後の体と心の実態

●体のトラブル

- ・肩こり・腰痛・尿もれ
- ・骨盤周りの違和感・睡眠不足
- ・おっぱいのトラブル
- ・体力の低下…など

●心の不安定さ

- ・赤ちゃんの心配・無力感
- ・夫とのすれ違い・イライラする
- ・職場復帰の心配・社会的孤独
- ・産後うつ…など

子育てが始まる大事な時期に多くのトラブルを抱えています

■産後の心身の健康に必要な3本柱

有酸素運動

産後の体に負担をかけず、全身の血行を良くして体力の回復に努めます。

コミュニケーション

産後は家庭内で過ごすことが多くなり、コミュニケーション力も低下。大人同士の会話を楽しみ、自己表現力を身に付けます。

セルフケア

日常でできるケアをとおして、母親自身が自分の体力を取り戻していきます。



肩こりのセルフケア実践中

「産後はリハビリが必要です」

■NPO法人マドレボニータ(マドレボニータとは、スペイン語で「美しい母」の意) 2007年設立。日本に「妊娠→出産→産後」という途切れない周産期ヘルスケアを目指し、プログラムの開発、研究を行っています。全国各地で「産後のボディケア&フィットネス教室」や、「産後セルフケアインストラクターの養成と認定」などを行っています。

参加者アンケートより

- ・産後うつについての話が聞けて良かったです。自分だけではないんだと思えました。
- ・コミュニケーション、話す力、聞く力の大切さを知りました。
- ・講座に出掛けて来ることからリハビリが始まっているのだと実感しました。
- ・今までは精神面だけの問題だと思っていましたが、産後の母親の体力回復が重要だと分かりました。
- ・女性の出産は、体に大きな負担がかかることを再認識しました。

笑顔の母親たちを増やしたい★

社会全体で子育てをサポートしよう！

母親自身も持っている力を発揮しよう！

講座の様子。この講座は夫婦や赤ちゃん同伴での参加がOK。赤ちゃんをあやす際にも、ママ自身は有酸素運動にもなり、赤ちゃんは気持ちよく寝てくれます。



迷える女子のための 夢☆叶えるセミナー ～夢を見つけて夢を叶える2Days～

第1回目
11月5日(土)

夢☆叶えるための
ライフプラン
～マインドマップで描く！
理想の未来～



講 師：ブザン公認マインドマップインストラクター 安田 真知子

「～すべき」や「母や女性という役割」にとらわれず、自分のやりたいことを見つけられるよう、マインドマップの手法を使い、自分が本当に求める将来のビジョンを明確にしました。

目標達成・願望実現の法則

※この3つが揃うと夢が実現する。

！はっきりとしたイメージを持つ

” 目的地までエネルギーがある

人への貢献度

マインドマップを描いて夢が分か

ったら、いつまでに何をやるか

という「アクションプラン」を作る。

夢に日付を入ると「予定」になり、夢実現のため準備

して行動する。夢が叶う。



第2回目
11月19日(土)

夢☆叶えるための
マネープラン
～FPに聞く！
知って得するお金の話～



講 師：栃木ファイナンシャルプランナーズ・協同組合 金盛 有貴

夢を叶えるためには、お金が必要なこともある。お金を貯めることが目的になると続かないので、「夢を叶えるため」の貯金ということを忘れない。自分と他の人を比べず、自分に目を向けることを学びました。

- ・夢を叶えるためには、今現在の貯蓄額やローンの残高、1か月のお金の流れを把握しておくことが大切。
- ・「お金はエネルギー」：やりたいこと・欲しい物には気持ちよくお金を使おう。使った分だけかえってくる。
- ・60、70代になった時にどんな風に生きていきたいかをイメージし、今から準備しておく。
- ・「いつまでにやる」という「決意」と「行動」が大切。
- ・「節約」も発想をポジティブに転換し、「夢のため」「エコ」とすると楽しく続けられる。



※マインドマップは絵を描く講座ではなく、頭の中にあるイメージを紙に落とし込む。

参加者の声

- ・無意識に「できない」と思っていた部分が自由になって、やりたいことがぼんやり見えてきた。
- ・こんなに「自分の将来」について考えたのは初めてだった。
- ・夢を叶えることがお金ととても関係していることが分かり、自分の夢をはっきりイメージすることの大切さを学んだ。



本の紹介

男おひとりさま術

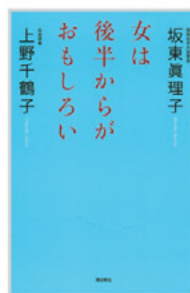
中澤 まゆみ 著／法研



食生活のための男の料理教室、掃除のコツ、医者のかかり方、税金や年金、保険について、住居のあれこれ、老人ホームの選び方等々、男おひとりさまの老後の経済的自立、精神的自立、生活的自立、身体的自立に役立つスキルを紹介する。

女は後半からがおもしろい

坂東眞理子 上野千鶴子 著／潮出版社



昭和女子大学学長の坂東眞理子（著書「女性の品格」など）と、女性学・ジェンダー研究のパイオニアで社会学者の上野千鶴子（著書「おひとりさまの老後」など）が仕事、恋愛、結婚、家族、老いについて語る。これが女の生きる道！

メンズのための安産バイブル

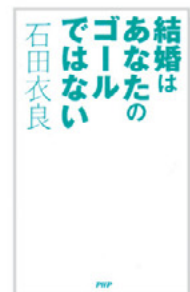
大葉 ナナコ 著／主婦の友社



妻が妊娠中の夫が抱える不安「こんな未熟な俺が父親になれるのか」、お産の不安「陣痛だ！俺は何をするべきか」、産後の不安「赤ちゃんにどう接したらいいかわからない」など、50項目のメンズの疑問にパースコーディネーターの著者が答える。

結婚はあなたのゴールではない

石田 衣良 著／PHP研究所



結婚が幸せへの「パスポート」ではなくなった現代。「理想的な結婚のかたちとは？」「いい女の条件とは？」「恋愛に有利なコミュニケーションとは？」など、女性が抱える悩みを自分自身の「しなやかな力」で解決するためのヒントを紹介する。

ちいき情報

県内で活躍中のひと・グループの紹介です。

母となった私たちの”はたらく”を語ろう

NECワーキングマザーサロン@宇都宮を開催

「NECワーキングマザーサロン（以下サロン）」は、NPO法人マドレボニータとNEC社会貢献室との協働で行われている、子育てしながら働く・働きたい女性のクオリティ・オブ・ライフ向上を目的としたプログラムです。

子どもの預け先に悩む育児休業中の方、いずれ働きたいと思っではいるものの、一歩踏み出せないでいる方、自分を主語に話したい専門主婦の方、子育てと仕事の両立に悩むワーキングマザー、学生など、母となっではたらく、ことについて考えたい女性ならどなたでもご参加できます。約2時間の間、少人数で、自分の思いに向き合い、それを言葉にし、仲間と分かち合うコミュニケーション・ワークを行います。

私自身、子育てしながら働くことへの不安を誰にも話せなかったことから、「悩んでいる女性が安心して話せる場」を作りたいと思っていました。そんな時、このサロンのファシリテーターの公募を知り、研修を受けました。7月から11月まで、全6回宇都宮市内でサロンを開催しました。

サロンに参加した方からは、「自分の本当の想いが付くことができた」「自分の想いを言葉にすることは大切。気持ちの整理ができた」と言った声が多く寄せられました。様々な立場の女性が集まるサロンでは、視野が広がり、漠然とした不安を前向きな課題にとらえなおしていくことができます。

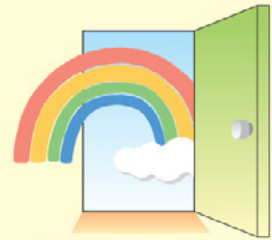
生後210日までの赤ちゃんは一緒に参加できます。



NECワーキングマザーサロン活動ブログ
<http://blog.canpan.info/wms/>

宇都宮のサロンに参加できなかった方は、ぜひ参加してみてください。
「NECワーキングマザーサミット」が2012年1月23日(月)13:00~16:00 NEC本社ビル・地下多目的ホールにて開催（東京都港区田町）
詳細・お申し込みはこちらから <http://www.madrebonita.com>

(WMS宇都宮 佐藤 直子)



こんにちは 相談ルームです

自分の考えや意見を声にして

相談ルームでは電話相談、来所による相談を受けています。日々の相談を通して、女性が自分の考えや意見を声に出すことはまだまだ難しいと感じています。

電話の声が元気をうであつても、来所した時の顔が笑顔であつても一歩踏み入ってその方の生活、人生に触れてみるとつらさを押さえていることに気付かれます。そんな時「ごほう」は大きな力を持ちます。自分自身を表現出来ないでいる時でも、誰かと対話をする中で気付くことや、解決に近づけることもあります。そのような時、相談ルームを利用していただき、色々な思いと一緒に整理してみませんか。「女性は家庭のことをすべき」と決めてしまつ前にいろいろな選択があつても良いのではないのでしょうか、悩む事も大切な過程のひとつではないかと捉えて、ぜひ「声」にしてほしいと願っています。

女性は家庭や社会の中で日常の事に係わる事が多く、自分の事を後まわしにしてしまいがちです。しかし社会の些細な事でもその世界に深く入り込み、係わりの中から自分の魅力を引き出していくことが出来れば、ステキな事だと思えます。ありのままの自分を受け入れ、自分の意思で判断し、決定する。そし

て決めた事に責任を持つ。その様なスキルを沢山持っている女性の力が、周囲を支えている基盤になっています。地域でのつながりを大切に活躍している女性がたくさんいることを考えると、女性は自分の生き方にもっと自信を持ってもいいのではないかと思います。

○一般相談

電話 月曜日～日曜日 9時～16時
面接 火曜日～日曜日 9時～16時

○配偶者暴力相談

電話 月曜日～金曜日 9時～20時
土曜日・日曜日 9時～16時
面接 火曜日～日曜日 9時～16時
(予約制)

○健康相談

毎月 第1木曜日 16時30分～18時30分
(予約制)

0268-6665-8720

男性のための電話相談

一人で悩んでいる男性もいるのになと思つている方。相談ルームではお電話での「男性相談」もお受けしています。専門の男性相談員があなたの悩みに応えてくれます。

○男性のための電話相談

毎月 第1・第三水曜日
17時30分～19時30分

0268-6665-8724

※祝祭日・年末年始はお休みとなります。

不妊専門相談センターから

ひとりで悩まずに
当センターをご利用下さい

栃木県不妊専門相談センターは、不妊に関する医学的な情報の提供や不妊による心の悩みなどの相談をお受けするために平成15年に開設され、今年の10月で8年が経ちました。

開設以来、毎年多くの方からご利用いただいております。昨年1年間の相談件数は727件でした。相談で最も多いのは、検査や治療、県内で治療を行っている医療機関など、不妊治療に関する情報を求める内容です。その他には、治療の進め方や治療の止めどき、仕事との両立の難しさなど、治療に関連した悩みや周囲の無理解、家族との関係など治療以外のことに悩まれている方からの相談もあります。

当センターでの相談は、月に1回の医師による相談と火曜日から土曜日まで行われる助産師による相談があります。医師による相談は予約による面接相談となつていますが、助産師による相談は、相談方法が電話・Eメール・面接となつていますので、その時にご自分が一番利用しやすい方法でご相談いただけます。

また当センターでは、個人の相談だけでなく、同じ悩みを持つ方たちが集まるグループ相談会も行っています。同じ体験や悩みを持つ人と話がしてみたい、という方は、是非こちらにもご参加ください。

不妊に関する悩みは、家族、友人であつ

てもなかなか相談することが出来ず、話しても理解してもらえないこともあることから、一人で抱えてしまうことが多くあります。当センターの利用にも「どんな人が対応してくれるのだろう」「こんな事を聞いても大丈夫なのだろうか」と、迷われる方がいるようですが、不妊に関する情報が知りたい、誰かに話を聞いてもらいたい、という方は、ひとりで悩まず、お気軽に当センターをご利用ください。

●医師による相談

毎月第4木曜日
前日までに電話又はメールでご予約ください。

●助産師による相談

○火曜日～土曜日
10時～12時半、13時半～16時

●グループ相談会

毎月第3土曜日
詳しくは電話又はメールでお問い合わせください。

専用電話：0268-6665-80069
Eメール相談：tunin@partijp
パーティのホームページ
<http://www.partijp/>に不妊に関する詳しい情報がみられます。



平成23年度 講座のご案内

☺ がついている講座は一時保育(1歳から未就学児)あり

お申し込み・お問い合わせは

パルティ まで
電話・FAX・ホームページ・直接来館にて

携帯電話での
申込みはこちら



1~4 無料講座

TEL 028-665-8323

FAX 028-665-8325

5~6 有料講座

TEL 028-665-7706

FAX 028-665-7722

URL <http://www.parti.jp/>

パルティ 検索

1 生涯を通じた女性の健康を考える講座

肌がカサつく、肩がこる、顔がほてる…。以前にはなかった不調を感じたら、プレ更年期の症状かもしれません。少しずつ変化している自分のカラダに目を向けてみませんか？

●開講日・テーマ・講師

1/28(土) いきいきと年齢をかさねるために。

—40歳から知っておきたい女性ホルモンの力—

獨協医科大学産科婦人科 教授

女性医師支援センター センター長

医学博士 望月 善子

●時 間 13:30~15:30

●対 象 女性

●定 員 30名

●受講料 無料

●申込締切 開催日前日

●保育締切 1/7日(土)



2 男のライフバランスを考える講座(全2回)

～元気いっぱい！心も体もいきいきライフで魅力アップ～

●開講日・テーマ・講師

！ 2/18(土) 笑顔のセルフプロデュース

～印象力アップで自分の魅力を再発見！～

SHINB | 主宰 イメージコンサルタント ちとせ

" 2/25(土) 簡単！セルフメンテナンス

～いきいきダンベル体操と美味しいギョウザづくり～

宇都宮大学名誉教授 益子 詔次

●時 間 13:00~15:30

●対 象 男性

●定 員 30名

●受講料 無料

(*) のみ別途材料費がかかります)

●申込締切 2/10(金)

●保育締切 1/24日(火)



3 就職準備相談会

キャリアアドバイザーによる個別指導で、きめ細やかな対応ができます。

●開講日・テーマ・講師

！ 1/21(土) 通職探し相談会

" 1/22(日) 応募書類の書き方相談会

2/25(土) 面接体験と社会人のマナー相談会

進行：パルティ キャリアアドバイザー

●時 間 !・" は10:00~12:00

は10:00~15:00

●対 象 就職準備中の女性

●定 員 10名程度

●受講料 無料

●申込締切 各開催日前日

●保育締切 ! 1/4(水) " 1/4(水) # 2/7(火)

※一時保育等、詳細はお問い合わせください。

※この講座は雇用保険受給対象の講座とみなされます。

資格がなくても受講できます。

4 不妊・流産に悩む人のグループ相談会

同じ悩みを持つ人に“会いたい”“聞きたい”“話したい”という人たちの集まりです。



●開講日・テーマ・講師

% 1/21(土) 不妊に悩む女性

& 2/18(土) 治療をやめた女性とやめようか悩んでいる女性

進行：不妊専門相談センター相談員

●時 間 13:30~15:30

●対 象 不妊・流産に関連した悩みを持つ女性

●定 員 10名程度

●受講料 無料

●申込締切 開催日前日

※お申し込みは栃木県不妊専門相談センターまでお願いします。

TEL 028-665-8099

火曜日~土曜日

10:00~12:30、13:30~16:00

5 リーダーのためのコミュニケーション講座 ～NLP入門～ (全2回)

すべてのリーダーたちへ (これからなる人も！)

～みんなが輝く方法～

●開講日・講師

！ 1/28(土) " 2/4(土)

NLPスクール心につばさを！代表

米国NLP協会認定メタ・マスタープラクティショナー&トレーナー

細谷 和博

●時 間 10:00~16:00

●対 象 地域活動、団体・グループ活動、PTA活動、
会社などで活用したい人

●定 員 30名

●受講料 5,000円

●申込締切 1/5(木)

※NLPとは、心理学を用いた実践的なコミュニケーションスキルです。

効果的な人間関係の構築・モチベーションアップ、不安やストレスの解消に役立ちます。

6 女性のためのコーチング入門講座(全2回)

相手を活かし、自分も心地よい関係を築くコミュニケーションスキルを学びます。

●開講日・講師

！ 2/18(土) " 2/25(土)

スマイルコミュニケーション代表

日本アクションラーニング協会認定シニアALコーチ

小林 里江

家庭でも職場でも役立つコーチングの
発想をもとに、「承認」「傾聴」「質問」な
どの基本的な手法を習得します。

●時 間 10:00~15:00

●対 象 2日間とも受講可能な方

●定 員 25名

●受講料 4,000円

●申込締切 1/20(金)



